

大人のチカラ

～子どもたちの未来のために～

1

細松英正 香川県教育長インタビュー①

学ぶための 基礎力を家庭で

今 週からスタートした連載「大人のチカラ」では、子どもたちの健やかな成長のために、大人が果たすべき役割を考えます。連載に先立ち、細松英正県教育長に、香川の子どもたちと家庭・社会の関わりについて聞きました。

Q 「今の子ども」の印象は？

子どもたちと話したり現場の教諭の話などを聞くと、現代の子どもたちは「あきらめが早い」「最後までやり遂げ

る粘り強さ、忍耐力に欠ける」という特徴はあるかもしれない。また香川に限ったことではなく、各家庭に子どもが少なくなり、きょうだいや友人とのけんかを通じて力加減や他人との距離感を感じる

社会性が養われにくくなっていること。子どもたちが見る時間帯に、昔では考えられないほど刺激の強いテレビ番組が流れるなど、情報過多であることは間違いないでしょう。

しかし一方で、できないことを努力してできるようになった時の笑顔など、子どもたちの根本は昔も今も変わっていないと感じます。

Q 「目指すべき香川の子ども」とは？

香川県教委が2011年度からの5カ年で策定した「県教育基本計画」では、未来を担う子どもたちに知性や健康な心と体、社会性を身につけることなどのほかに、「ま

まさまざまな問題から逃げず、真面目に立ち向かう力」を挙げています。その力は、学校で「知・徳・体」を身につけ、自分に自信を持てればおのずと身に付くものだと思います。そして、子どもたちがそのスタート地点に健やかに立てるよう、心と体の準備を整えさせるのが家庭の役割ではないでしょうか。

それは例えば朝ご飯をしっかりと食べさせ、「こじはけはないこと」は絶対にしてはいけない、しなければならぬこととは必ずする」などのしつけをし、しっかりと抱きしめること。また時には、あふれる情報からの防波堤

になり、時に厳しく成長を見守ること。「奮りまで躍りを忘れず」という言葉通り、幼いときに身につけた考え方や生活習慣が学校で学びを身につける基礎になり、将来の日本を担う人材を育てる第一歩になります。親にしか教えられることが絶対にあります。ぜひその自覚を持っています。



協力 / 香川県教育委員会